

学校法人 聖ヶ丘学園 八幡橋幼稚園

2024年度（令和6年）自己評価結果公表シート

八幡橋幼稚園では、本園の教育理念、教育目標達成に向け、2024年度の学校評価（自己評価）を実施しましたので、以下のとおりご報告します。

【自己評価】

- （1）対象者：全職員13名
- （2）実施日：2025年1月10日～2025年1月31日
- （3）実施方法：職員全体会議において、全職員に学校評価 幼稚園チェックリストを配付し、幼稚園の取組み状況や 自分自身の取組み状況について評価を求めた。

1. 学校の教育目標

事業の目的：本園は、学校教育法第22条及び第23条に基づき、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とします。

教育方針：明るく・素直に・のびのびと主体的に過ごす中で豊かに生きるための基礎力が身につくようにします。また、「非認知能力」「主体的・対話的・深い学び（アクティブ・ラーニング）」を重視します。

教育目標：健康な心と体を自ら育て、様々な人と関わり、何ごとにも好奇心を持って意欲的に取り組む

2. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画

2024年度の教育及び保育の内容に関する全体的な計画を職員と共有し、園の教育及び教育方針、教育目標のもと評価項目に従って自己点検、自己評価を実施する。職員自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育及び保育内容の改善に向けた取り組みを目指していく。また、少子化の現状を意識した取り組みを踏まえ、職員全体で園の運営、教育活動、学校安全計画について理解を深め、さらによりよい園の運営を図る足掛かりとしたい。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	理由
I 教育目標 ・教育方針	新学期が始まる前に、八幡橋幼稚園の教育目標・教育方針・教育課程・指導計画について、職員会議で確認し、全職員が共通の意識を持ち教育活動に取り組んでいる。職員の同僚性が高く忌憚なく話し合う風土がある。 教育方針“明るく素直にのびのびと”教育目標“健康な心と体を自ら育て、様々な人と関わり、何事にも好奇心を持って意欲的に取り組む”を基本とし、年齢や一人ひとりの個性を尊重し、自己発揮できるよう「子ども主体・教師主体」の教育活動を行っている。

<p>II 教育課程 ・指導計画</p>	<p>幼稚園教育要領を基本とし、八幡橋幼稚園の教育課程を編成し、指導計画を作成している。指導計画は「幼稚園に於いて育みたい資質・能力の3本の柱」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を念頭に置き、各担任が学年の発達の特性を踏まえ学期ごとに作成している。また、その時々の子どもたちの成長に合わせ、計画にとらわれすぎず柔軟に活動内容を編成している。</p> <p>昨今の異常気象を鑑み、子どもの体調、安全を第一に考え、行事の日程を変更した。</p> <p>「子どものやりたことが実現する保育」を展開するために、子どもの意見を取り入れ、主体性を大切に思い切り活動できるような保育を心掛けている。お泊り保育、園外保育、運動会、おゆうぎ会の活動内容も各学年で子どもたちと話し合い、意見を取り入れ工夫している。</p>
<p>III 教育環境</p>	<p>園庭の環境構成においては、丸太や竹、巧技台等を置いておき、子どもたちが自ら活動を展開していけるような場や空間を用意している。遊具や教具について危険なところがあればその都度、職員間で共有し積極的に意見交換を行い改善に努めている。子どもの発想を柔軟に取り入れ、学年の垣根を超え、保育室も自由に行き来できる環境にあり、異年齢の関わりが自然に生まれている。</p> <p>芦名橋公園・うみの公園等近隣の公園に異年齢の子どもたちで出かけることでより良い関係を築くことに繋がっている。</p> <p>また、年長児が年少児の朝の支度や給食の配膳の手伝い、歌聞かせやリトミック等の手本となる活動も取り入れたことで触れ合う機会が多く、より交流を深めた。</p> <p>学園内交流として育和農園に苗植え、芋ほりに行き、虫探し等で泥んこになって自然に触れる機会もあった。</p> <p>今年の食育について、子どもたちが意見を出し合い、各学年に合ったクッキングを行った。年長児はカレーを作り、年少児に振舞い、年中児はスイートポテトを作った。</p> <p>また、子どもたちが思いきりあそび続けることができよう、季節に合った環境づくりとしてコーナーあそびを設けて個別の対応も丁寧に関わった。 (毛糸からげ、ろうそく作り、編み物など)</p> <p>保育室や園内の装飾は子どもたちの作品を飾り、大切にしている。</p>
<p>IV 教育の内容・方法</p>	<p>教育課程を基に教育内容や活動を定め、身近なものに興味、関心を持って、何ごとにも自主的に取り組めるように支援している。5領域のねらいや内容を職員で共有し、保育の質の向上に努めている。</p> <p>描画や制作など、一斉に行うことにこだわらず、一人ひとりの個性に合わせて、子どもたちの“やってみよう”という気持ちを大切にに関わり、活動が楽しめるようにした。</p> <p>また、園庭で野菜や稲、草花を育てたり、虫や小動物を飼育したりすること</p>

	<p>により、豊かな思いやりの心が育つよう心掛けている。遊具、教具、自然の素材（羊毛100%の毛糸など）を使用し、遊びを通していろいろなことを経験し学べるよう小さい時から本物に触れ感性の育ちを大切にしている。</p> <p>送迎時に保護者とのコミュニケーションを取り、個々に適した園での援助の仕方が日々見直され、職員間で共有しさらに興味、関心が広がるような声かけや関わりを心がけている。</p>
<p>V 教師の役割 ・資質向上</p>	<p>今年度も研修計画に基づき、キャリアアップ研修と経験年数に応じた研修に参加し各職員が自己研鑽に努めている。また、保育実践研修や公開保育に参加することで他園の取り組みを学び、あらためて自園の強みや課題について職員間で共通理解することができた。今後も職員同士、互いの良さを認め合い、子どもを真ん中に保育の語り合いができる関係性を継続していく。</p> <p>毎年、夏のオンライン研修会には全職員で参加している。研修で学んだ知識や技術を保育に活かし職員の保育の質の向上を目指していく。</p> <p>学んだことについて資料提出も行っているが、非常勤職員も参加しての内部研修や報告会を設け情報共有する時間が持てないことが課題である。</p> <p>子どもたち一人ひとりに寄り添い、子どもとのより良い関係性を作ることで保護者の信頼を得ることができている。</p>
<p>VI 子育て支援</p>	<p>在園児の保護者からの相談については、各家庭の実態を踏まえ丁寧に対応している。また、子育てに不安のある保護者に対しては、個別の面談を設け気持ちを受け止め親身に対応している。</p> <p>園外の保護者に対しては主幹教諭・園長が窓口となり随時、相談内容に応じた支援をしている。</p> <p>インクルーシブ教育については療育センターの方に巡回指導に来てもらい良好な関係性を築き子ども一人ひとりの育ちを大切に関わるように努めている。</p> <p>また、地域の子育て施設と連携し園庭開放を行うことで幼稚園のことを知ってもらうことができた。運動会にも未就園児の親子を招待し、子どもたちの様子を見てもらう機会を設けた。引き続き地域の子育て支援施設と連携し、幼稚園入園についての相談会や園庭開放の回数を増やしていきたい。</p> <p>今後も園内外の保護者が幼稚園の行事に参加する機会を設け、保護者との円滑な関係性を築けるように努める。</p> <p>今年度もなかよしバザーを開催し、卒園生、地域の方、次年度入園の親子も遊びに来てもらった。幼稚園や公共の施設を利用した行事等での親子の立ち振る舞いや道徳性については、保護者会でしっかりと伝えていきたい。</p>

VII 地域住民や関係機関との連携	<p>警察署主催の交通安全教室を行い、交通ルールについての知識を深め、交通安全祈願の七夕の飾り付けにも参加しパトロールカーや白バイに乗車させてもらった。市電保存館へは七夕飾りやハロウインの絵を展示してもらい見学にも行き交流を深めた。</p> <p>また、地域の特別養護老人ホームのクリスマス訪問や地域のお年寄りに昆虫について教えてもらったり昆虫の標本を園に寄贈してもらうなど交流を深めることができた。</p> <p>今年度は根岸中学校で開催された地域の防災訓練に参加し防災意識を高める機会となった。今後も地域の方々との出会いや交流を大切にしていきたい。</p> <p>今年度の幼保小連携については根岸小学校のスタートカリキュラムに参加し絵本の読み聞かせをした。また、就学に向けて各小学校の先生が来園され、子どもの様子を見ていただくなど円滑な関係性が築けている。連携先の磯子小学校、根岸小学校、間門小学校、滝頭小学校と交流する機会を持ち、学校探検や体操、生活の授業に参加させてもらった。子どもたちはお兄さん、お姉さんに優しく接してもらい、就学に向けて安心感や期待感を持つ姿が見られた。</p> <p>また、今年度は間門小学校の職員研修の講師として招かれ「幼保小の架け橋期の教育の充実」について幼稚園と小学校の職員間で共通理解を深めることができより良い関係性を築くことができた。</p> <p>小規模保育施設との連携に関しては、乳児を園に招き、園庭で一緒に体操や泥遊びをして交流を持つことができた。</p>
VIII 運営管理	<p>全職員が就業規則などの規約を確認し、守秘義務を遂行し質の高い保育を目指している。聖ヶ丘学園本部及び同附属園との連携を密にして業務の効率化と改善に向け、人事労務、財務等の面から分析を行っている。</p> <p>毎月、様々な事態を想定した避難訓練を実施し、園児の安全確保に努めた。安全管理マニュアルを策定し事故等を防止する体制を整えている。</p> <p>今年度の引取訓練では、地震・津波が発生した際に行っている高所避難を保護者にも体験していただくため、実際に避難経路を確認しながら屋上まで上がっていただいた。さらに屋上の備蓄水、食料、災害用トイレ、各クラスのリュックの中身等の確認をしていただき、共に災害に対しての意識を高める機会となった。</p> <p>事故報告書は各担任が記述し、再発防止の意識を高めている。</p> <p>昨今の社会状況や自然状況を鑑みて、安全教育(生活安全・交通安全・災害安全)安全管理・衛生管理について職員間でその都度、行事の日程等や内容について確認を行う必要がある。</p>

4. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
A	<p>今年度も園の教育及び教育方針、教育目標のもと、自己評価を行うことにより、幼稚園教育活動における各自の保育を振り返る機会を持つことができた。個々の職員による評価は異なるが概ね目標を達成する職員が多かった。</p> <p>全職員「子ども主体・教師主体」の教育を目指し、安全、安心な環境の整備、活動の充実等、子どものやりたいことを実現できるように子どもの声に耳を傾け、意見を受け止め、一緒に考え工夫し、職員間で子ども理解を深めたことは評価できる。</p> <p>昨年「Ⅴ 教師の役割・資質向上評価」がB判定だった項目が、今年は「A判定」となったが、常勤と非常勤職員が一同に集まるのが難しいので、会議等で職員一人ひとりの考えを伝え合う機会を持つことを引き続きの課題とする。</p> <p>当園の自己評価は保育の質の向上を目指すために、子どもの育ちや学びの姿を語り合い、開かれた同僚性の形成につながることを目的としている。</p> <p>幼稚園として、質の高い保育の維持・向上のためには、自己評価が不可欠である。そのためには今後も個々が行った自己評価や結果の振り返りをもとに意識を持って活用していきたい。</p>

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教育課程の編成	<p>幼稚園教育要領に基づき、子どもたちの資質、能力にあった計画を立て、今を大切に、何をやりたいのかを即座に察知し柔軟な対応により、意欲的なあそびを展開していかれるように職員同士で共有を図っていく。</p> <p>また、配慮の必要な子どもに対しては個々の実態を把握し、集団の中で生活することを通して全体的な発達を促していくことに配慮していき、かつ個別の支援計画を作成し活用することに努める。</p> <p>今後も円滑な業務遂行のため、ICT化により、ドキュメンテーションや指導計画作成に取り組んでいく。</p>
保育環境の充実	<p>子ども主体の保育を大切に意欲や探求を深められるように継続した遊びが行える環境を設定していく。また、園庭の環境整備については全身運動を促すための環境についても引き続きの検討事案としていく。</p>
安定的な園児募集	<p>母親の社会進出が増えたことにより保育園希望も増えていることを鑑み、幼稚園入園について地域へのPR活動をしていく。また、園庭開放を定期的で開催し幼稚園への理解を広げる取り組みをしていく。</p>

安全管理体制の強化	<p>自然災害や火災等に対して実際の避難をイメージして訓練を毎月行い振り返る。また、バス乗車時の安全管理、避難誘導についても全職員、統一の意識を持てるようにする。</p> <p>また、不審者対応についても命を守る行動が職員、子どもが共にとれるよう引き続き、警察関係者等専門の方に指導依頼し防犯意識を高めていきたい。</p> <p>園舎施設全体の各箇所における安全点検を担当者中心に定期的に行う。園内の教具、備品についても同様の徹底を行う。</p> <p>引き続き、様々な感染症拡大防止の対策は継続し衛生的な環境構築に努める。</p>
教職員の資質向上	<p>職員は自己研鑽や幼稚園内での研修に加え、キャリアアップを目的とする体系化された外部研修の制度等に合わせて、自らの職位や職務に合った能力を身につけるために研修を受け、保育の質の向上に努める。さらに園内での情報交換は常勤・非常勤の区別なく、誰もが共通の意識を持って全園児と向き合えるよう努める。園外研修で学んだことを全職員に報告し、学びを全員のものとする。</p> <p>また、学園内の施設職員との交流を行くことにより、乳児から幼児期における保育の連動性の大切と発達の理解を深めていきたい。</p>

学校評価 幼稚園チェックリスト<ステップ1>

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	今後取り組むべき課題

I 教育目標・教育方針

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	園の教育目標や教育方針はわかりやすい。	A
②	園の教育目標が子どもたちの中に生きている。	
③	園の教育目標や方針について、園長や他の先生方と話をする機会がある。	
④	園の教育目標は、幼稚園教育要領の内容に沿ったものになっていると言える。	
⑤	教育方針は、その時々幼児に合ったものになるように定期的に見直されている。	
⑥	園の教育目標は、園の創立の理念を生かしている。	

II 教育課程・指導計画

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	園の教育課程は、教育目標を生かして作られている。	A
②	子どもたちの年齢ごとの教育課程がある。	
③	園の教育課程は、園長と先生方が話し合いながら作られている。	
④	園の教育課程は、必要に応じて見直されている。	
⑤	幼児のしたいことや、興味のあることを取り入れられるようになっている。	
⑥	幼児の教育に、地域の自然や施設を活用している。	

III 教育環境

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	活動の環境を作る時には、指導計画を意識している。	A
②	幼児の動きや視線の動きに気を配った構成をしている。	
③	幼児の思いや言動を参考にしながら、保育室の装飾や展示を考えている。	
④	自然や社会とかかわりを持てるような体験（芋掘り、消防署見学など）を取り入れるようにしている。	
⑤	環境の構成について、先生方の中で積極的に意見交換が行われている。	
⑥	年齢の異なる幼児が、触れ合えるような環境構成をしている。	

IV 教育の内容・方法

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	教育内容や方法は、園の教育課程を基にして作られている。	A
②	幼児の家庭での様子を参考にしながら、援助の内容を工夫している。	
③	園で動物を飼ったり植物を育てたりしている。	
④	幼児は集団生活や遊びを通して、いろいろなイメージや意見があることを知り、自分の気持ちに折り合いをつけて、相手の気持ちに気付けるような工夫をしている。	
⑤	幼児が意欲的に造形活動（描画・製作）をする時間を大切にしている。	
⑥	食べ物についての話をする機会がある。	

V 教師の役割・資質向上

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	一人ひとりの幼児をよく観察するように心がけている。	A
②	すべての幼児に平等に接するように心がけている。	
③	その場にふさわしい言葉遣いができる。	
④	研修に行った先生の研修内容は、全員に紹介される。	
⑤	幼児のモデルとなれるよう気をつけている。	
⑥	保護者との信頼関係ができています。	

VI 子育て支援

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	保護者の子育てについての相談にのっている。	A
②	園や園庭の開放を行っている。	
③	子育て支援の内容について全員で話し合いをしている。	
④	子育て講演、情報提供を行っている。	
⑤	3歳未満の、親子の子育て支援をしている。	
⑥	幼児のことについて相談できる専門機関がある。	

VII 地域住民や関係機関との連携

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	地域の人々と親しく挨拶ができる。	A
②	地域の小学校の行事や公開授業を見学に行く。	
③	地域の方は、園のことに興味を持ったり園の方針を理解している。	
④	地域のお祭りや伝統行事に参加することがある。	
⑤	保護者だけでなく地域の人も行事に協力している。	
⑥	地域のお年寄りとの交流を大切にしている。	

VIII 運営管理

No.	具体的な内容	評価 (A B C D)
①	園児や保護者のことを園の外で話題にしない。	A
②	現金の管理は間違いのないように行っている。	
③	先生方は、災害や事故報告書の作り方を知っている。	
④	保護者の意見はしっかりと聞き、園長に報告している。	
⑤	園の施設の安全点検、衛生管理をしっかりと行っている。	
⑥	園内での役割分担がはっきりと決まっている。	